



(左) 職業訓練校の生徒が作ったランチョンマットとスープ皿
 (上) 型を使わずに手で形を作る陶器用の土をこねる生徒。使用する土や水の量は、焼く温度や形作りの方法によって異なる
 (下) 村ごとに異なる伝統的な刺繍を施す女性

刺繍と陶芸、伝統を生かした商品で貧困から脱出!

オアハカは「新興国」メキシコにあって、貧困問題が深刻な地域だ。が、一方で、文化的には伝統技術が息づく豊かな土地。人口に占める先住民の割合が多く、例えば女性たちは代々、村に伝わる伝統刺繍を教わり、それをを用いた美しい布製品を作る。

そんな彼女たちが今、州の職業訓練校で、JICAのシニア海外ボランティアから服のデザイン方法や新しい縫製技術を学んでいる。伝統刺繍を生かした、モダンで質の高い商品を作って売ることで、貧しい家庭の生活向上を図ろうとしているのだ。

訓練後は、丁寧な技術と独創的なデザインが人気を呼び、仕立て注文が来るようになった。「仕立屋を開く夢を持つようにな

りました」「オリジナルの服を売る店を開けたらいいなと思っています」と語る女性も。

伝統にあぐらをかいては、貧困問題を解決する地場産業の成長には結びつかない。流れを変えようと、伝統陶芸家の息子であるファンさんは、「民芸品ではなく、工業製品として売れる食器を作りたい」と張り切る。陶芸家仲間とともに、日本人ボランティアを師に、新しい食器のデザインや釉薬の使い方、焼き方などを学んでいる。将来は仲間と、独自のブランドで食器を生産・販売する会社を設立しようと考えている。

伝統に新しい発想と技術を吹き込むことが、貧困脱出への道を切り開く。

(20ページに関連記事)



自分が作ったランチョンマットを見せる生徒たち

★ランチョンマット(2枚1組)を3人の方に、スープ皿(2個)をお1人にプレゼント! 詳細は34ページへ→

